



仙台市立錦ヶ丘中学校 第1学年通信
No.8 令和元年7月17日(水)

「命・共に生きる」を考える

7月5日(金)に本校の佐藤 淳一校長による「命・共に生きる」を考える講演～被災中学校の実録を通して～が行われました。前任校石巻市の雄勝中学校での被災体験そして復興支援活動・学校活動の実録を、貴重な写真や映像を交えて全生徒達に向けて話をしました。みな真剣な眼差しで話に聞き入り、中には涙ぐむ生徒も見られました。講演後の振り返りでも、①感じたことや思ったこと ②これからの生活に生かしていきたいこと、をしっかりと考え書くことができました。話をしっかりと聞いて、自分でよく考えをまとめることは、とても大切なことです。今後もこのような機会を多く設けていく予定です。

1 本日の講演を聴いて、感じたことや思ったことを書いてください。

私は、東日本大震災で辛い思いをしたのに、仲間とともに“生きよう”と思えたのはすごいなと思いました。私達は“生きる”ということは当たり前のようですが、生きるって本当にすごいなと思います。小さな命が誕生してそこから数え切れないほどの人達に支えられながら生きてきた私達はひとりじゃない！みんなで力を合わせれば、生きる勇気になるんだ！という気持ちをずっと胸に刻んで、何度もくじけながらも“生きる大切さ”を今回教えていただきました。あらためて本当に生きることはすごく大切なことなんだなあと思えました。“生きる”ことはすごく幸せなことで、“強くたくましく生きよう”とする彼らの生きがいは素晴らしいと思いました。

2 これからの生活に生かしていきたいことを書いてください。

私はどんなに辛いことがあってもそこを乗り越えて、いつか“生きてて良かった”と思えるような日に出会うために、今だからこそのできることをたくさんして、1日でも1秒でも多く生きられる時間を大切にして、私達を支えてくださった方々にもう一度“ありがとう”を伝えたいなと思います。私達が生きていく以上に大切なことはありません。いろいろしてもらっただけでも本当に幸せなことなんだと思います。だから、私はこれから何があっても“強く生きます”。



NSP始動！

(Nishikigaoka Smile Project：錦ヶ丘スマイルプロジェクト)

これは、1年生の毎日のあいさつがまだ習慣化されていない、という声を受け、1学年委員会を中心に、気持ちの良いあいさつを推進しようと新しく発足したプロジェクト名です。学年委員が現状分析・活動の原案を作り、あいさつ運動を推進できるサポーターを各クラスから4～6人選出しました。先日、選ばれた総勢40人の初顔合わせをし、このミッションを達成するべく侃々諤々の話し合いをしました。少しでも自分たちの環境・雰囲気をよくしたいという気持ちが伝わる活発な討論でした。あいさつはコミュニケーションの始まりであり、心の鏡であることを理解し、みんなが自分から進んであいさつできるよう、自分たちが手本になるという決意が感じられました。すでに、1学年特設 朝の放送・ポスター作成などいろいろな活動が計画されています。今後の子ども達の成長が楽しみです。